講演会　井筒和幸監督「映画作りのあれこれ」

Profile

井筒　和幸

●生年月日　1952年12月13日
●出 身 地　奈良県

奈良県立奈良高等学校在学中から映画制作を開始。8mm 映画「俺たちに明日はない」卒業後に 16mm「戦争を知らん方も」を制作。1975 年、高校時代の仲間と映画制作グループ「新映倶楽部」を設立。150 万円をかき集めて、35mm のピンク映画「行く行くマイトガイ・性春の問々」にて監督デビュー。上京後、数多くの作品を監督するなか、1981 年「片平帝国」で日本映画監督協会新人奨励賞を受賞。その後も数々の作品をヒットさせ、「岸和田少年愚連隊」(96 年／ブルーリボン最優秀作品賞を受賞)「パッチギ!」(04 年) では、05 年度ブルーリボン作品賞他、様々な映画賞を総ねめ獲得。また、最新作「パッチギ! LOVE&PEACE」(07 年) などお情性と編快さをあわせ持つエンタテインメントを作り続けている。

辛口の映画批評や CM でもおなじみの映画監督、井筒和幸氏。講演で語って頂いた映画に対する熱い思い、そして監督の代表作である「パッチギ」の裏話など一部ですがご紹介したいと思います。

監督が映画監督という職業を選ばれたこと、なぜ映画監督になろうと思われたか

僕らも小さいときから映画を観てきましたよ。そういう影響もあると思います。そして、幼い心に刺激も与えられました。何せ大きなスクリーンですから、スクリーンというのは本当に影響力があるものだということを僕は小学校5年生、6年生までにうんと知りました。

テレビを見ているよりは、映画だったらその 200 倍か 300 倍くらいの画像を見るわけですよね。そりゃ誰だって圧倒されますよね。映像の根本というのは、そういうことですよね。小さかったら意味ないのですよ。でかいから、いい加減な話でも見てしまうので (笑)。うちのお父さんがいろいろ映画に連れて行ってくれはって、そういうおかげもあったのでしょうね。やっぱりそこで見る、映像の持つ迫力。

だから、僕らはすごいものを観た日には、知恵熱みたいなもんが出ましたね、興奮して寝られないのですよ。でもね、逆に今日、小さい子供が映画館に行って、お父さんと一緒に映画を観て、その夜興奮して寝られないという子供を聞いたことがないですね。

以前、近所の子がお父さんと一緒に「崖の上のポニョ」を観てきた言ってました。

それで「おもろかったんかい」言うたら、「うん、おもろかった」って言っていましたけど、実際、家へ帰ってうなされたわけじゃないのですよ。これは絶対うなされてないんですよ。やっぱり、僕らのころと違うんです。

ああいうのに、僕らは特に敏感じゃない世代なのですよね。われわれが人生をつかまされたのは、映像の、しかも実写なのですね。だから、ああいうポニョみたいな、奥行きが全くないグラフィカルなもの、アニメというものにだまされなく育っている。平面、グラフィック、二次元というものは無理なのです。奥行きがないと駄目。いくらCGで奥行きをつけても無理なのです。それはうそだっていうのが分かっているから。

それはね、人間の目というのは見抜くのですよ。だから、アニメなんていうのは当時隅に追いやられていましたよ。それが今、隅に追いやられるどころか、東宝のボーナスが出るか出ないかという屋台骨になっているわけです。そんな時代になっている。実写よりも当たるわけですよね。みんな、ポニョ、ポニョですよ。中身は知りませんけどね。

実写とアニメの違いはありますけど、何にしろ語るもの、物語というものが違ったんでしょうね。

監督の代表作である「パッチギ!」と次回作について

あの映画は 68 年を舞台にして描きましたけど、そんなに実は日本人と在日の朝鮮人が仲良く暮らせているのかというと、実は暮らせてないのじゃなかろうかと思います。日本人が焼き肉にちょっと行きだしたくらいじゃないのかと。結局、そんなにうまく共生できているのかなという思いもあったので、その根っこを一回掘り下げてみようと。そういう意味で、68 年に時代を戻したのです。一番多感で、古い差別の価値観から新しい価値観、われわれの若者たちの新しい価値観、新しい考え方、そういうものができるきっかけの年でもありましたから。

だから、そのときに在日の朝鮮人と日本人はどんな学生生活送っていたのか、そういう事実を探っていこうじゃないかと。これは当たり前の発想ですけどね。でも、僕はただ主人公同士が国境を越えて、二人で手に手を取って生きていけたらいいなと思ったのですが、実は手に手を取って生きていけるどころか、現実は、ますます世知辛い世の中が 70 年代になってから始まったわけです。そういう意味では、全く共生する社会になっていないではないかと、悪化しているじゃないかという思いもありパート2も作りました。

当時沢尻エリカさんが新人で、ぽちゃぽちゃでしたね。今ですか?よく分かんないですよ、電話番号知らんしね。

また、あそこに出ている人は全員オーディションでボクが選びました。

ほんとにいい加減なやつだらけでしたけどね。みんな知らぬ間にいっぱいドラマに出ていますね。

まあ、そうやって僕らは卒業生を送り出す仕事ですから、未練を持っていたら、きりないのですがね。踏み台にしてくれたらいいという、因果な仕事ですわ (笑)。

ただ、うれしいですよね。「育てよったんはあのおっさんかい」ちゅうもんですから。

そうそう今度は江戸の話の映画を撮ろうと思っています。

江戸の町人の話です。町人たちが巻き起こすチャンバラ。こういうものをちょっとやろうかなと。

なので今、女優さんを探しているのですよ。

オーディション、どうしようかなと思って。沢尻エリカもいないし困ったなと思って (笑)。今はそういうのを準備しかけたところです。

ここでは紹介しきれませんが、講演では「関西と関東の文化の違い」や「話題のあの映画の辛口コメント」等、お話頂けました。
また、講演後、「映画の料金は高すぎないか?」等多くの質問にまじめに熱くお答えして頂きました。
テレビでは若干恐い?と感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、映画監督というよりも近所にいる面白いおっちゃんという親しみやすさも併せ持つ素敵な方でした。

ミドリの掲示板

第6期卒　日本文学科
宮谷　知佳
（旧姓：宮田）

6 期生のみなさん、お久しぶりです。

早いもので、大学を卒業してからもう 13 年が過ぎようとしています。

私は大学卒業後、地元の福井に戻り就職、その後結婚し、現在は昨年の 9 月に第 2 子を出産し育児休業中です。毎日 2 人の子供の世話に追われ、自分の時間がほとんど持てませんが、かわいい子供たちと濃密な時間を過ごせるのは今だけだと思い、日々楽しみながら奮闘しております。それでもやっぱり正直キツい時もありますが・・・。

今回このようなご依頼を受け、大学時代のことを振り返る機会を頂きました。当時を思い返してみると、今に比べていろんな面で自由だったなあと思います。おかげで、たくさんの友達と出会い、今ではとてもできないようなことも経験することができました。

また、大学祭の実行委員長をさせていただいたので、何もないところから皆で力を合わせて一つのものを作り上げていくことの難しさや楽しさ、そして何ともいえない達成感を味わうことができました。その経験は今の自分にとってもプラスになっています。挑戦することを恐れなくなりました。

今は育児に挑戦中なので、なかなか自分の好きなことはできませんが、一段落したら何か新しいことに挑戦したいと思います。

また、大学時代の友達にもなかなか会えないので、是非次の総会で楽しい時間を持ちたいですね。お互いどんな風になっているのか楽しみですね。

最後に、このような機会をいただくことで、当時の自分に戻ったみたいで少し若返ったような気がします・・・。ありがとうございました。

翠会からのお知らせ

今回掲載された宮谷知佳さんと連絡をとりたい方は、下記のアドレスにご自分のお名前とメールアドレス、入会期等を明記してメールを送ってください、翠会が責任をもって掲載者の方に転送いたします。なお、掲載依頼も随時募集しておりますので、どんどんこの掲示板を活用してください。翠会では毎年 8 月に金沢で総会を開いております。是非この機会に、懐かしい皆さんとクラス会を兼ねて集まってみてはいかがでしょうか?　お待ちしています!
（今年度の総会は平成 21 年 8 月 2 日です）

編集後記

皆様、The bloom2009 はいかがだったでしょうか？お気づきの方もいらっしゃったかと思いますが、今回から会報を透明の封筒に入れて送ることにしました。実際にお手元に届いた感想はいかがだったでしょうか?

ところで、次回から担当が変わります。エネルギッシュで魅力的な男性、12 期の池田　勇輝さんです。彼は前回の総会に参加してくれて、少しでも翠会の役に立ちたいということで加わってもらいました。ここ数年、総会の参加者も少しずつですが増えてきて、本当に嬉しい限りです。会長を中心に役員一人一人が頑張っている結果が少しずつ現れてきたのかなと感じています。これからも役員一同頑張っていきますので、よろしくお願いします。

最後になりましたが、今年も会報を発行するにあたり、「総会に参加して」に原稿を提供してくれた、村田 奈緒さん、靏本 俊彦さん、先輩の職場探訪の中村 美彌子さん、ミドリの掲示板の宮谷 知佳さんほか、たくさんの方々にご協力いただきました。
この場をかりてお礼申し上げます。ありがとうございました。

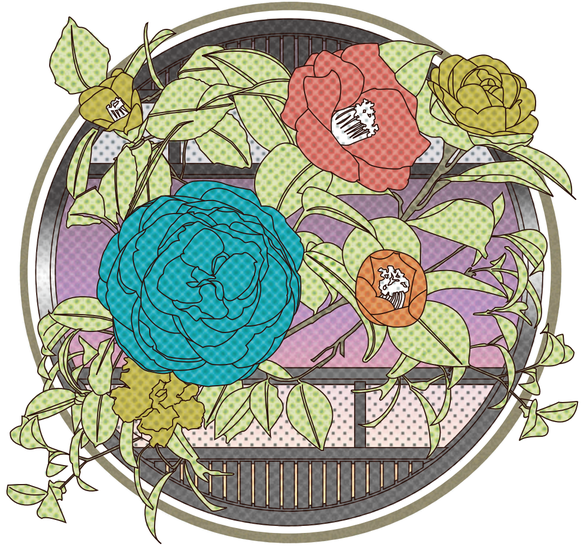
●ご意見、ご感想はこちらまで。　midori@moon.ucatv.ne.jp

翠会会報担当　小材 秀明

■発 行 日　2009 年 7 月
■編　　集　小材　秀明（第9期）
■発　　行　「翠会」〒920－1392　石川県金沢市末町 10

The Bloom 2009

金沢女子大学・金沢学院大学同窓会　翠会会報



～ 2008年度 講演会 「井筒　和幸監督による記念講演 」報告 ～

・ 翠会 会長挨拶「第1期　下置　宏子」
・ 2008年度 総会報告
・ 総会に参加して 「第18期　日本文学科　村田　奈緒さん　靏本　俊彦さん」
・ 恩師を訪ねて　「根本　博　先生」
・ 金沢学院大学公開講座について
・ 卒業生の職場探訪　「 第16期　美術文化学部　中村　美彌子さん 」
・ 表紙の作者インタビュー「 美術文化学部3年　岡山　志保さん 」
・ 卒業生の憩いの場「 ミドリの掲示板 」

翠会会長あいさつ

翠会会長
第１期　下置　宏子

翠会の会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。時こそ、できるだけ多くの同窓生に参加して欲しい、興味を持って欲しいという思いで活動して参りました。少しずつですが、「行ってみようかな」と、同窓会総会にお顔を見せてくださる方が増えてきて、とても嬉しく思います。

さて、昨年末からの世界的な不況は我が国にも大きな影響を及ぼし、暗い話題が続いておりますが同窓会員の方々の中にも、なんらかの影響を受けた方がいらっしゃるのではないでしょうか？

こんな時こそ、同窓会総会に参加してみませんか。先輩後輩のネットワークを活かして、何らかのヒントや新たなつながりが生まれるのではないでしょうか。1期生は40代の女性で、会社では管理職になっている方も少なくありません。お互いの勇気と元気を交換しに来てください。

この会報に毎回書いている事があります。それは、同窓会は決して役員だけで成り立っているものではありません。この会報を受け取っている方は皆さん総会に参加し、講演を聞き、懇親会に参加する資格と権利があるのです。今年こそ、是非参加してみてください。いつでもお待ちしておりますよ。

翠会 総会報告

①お忙しい中出席していただいたご来賓の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。　②会長の挨拶には、常に今後の具体的なビジョンが示されています。　③何度も議長を努めてくださっている奥井さんに、会長から労いの言葉がありました。　④司会を務めてくださったのは９期生の小林さん、とても和やかな雰囲気に包まれました。　⑤参加された同窓生の方々も資料を見て、会長の話に納得された様子でした。　⑥お酒が出はじめると会話もはずみ、懇親会も一段と盛り上がってきます。　⑦立食形式の懇親会は、話の輪も広がりやすく、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいます。　⑧翠会は同窓生の皆様に楽しんでもらえるよう、心を込めて準備をしてきました。

翠会総会に参加して…

第18期　日本文学科　村田 奈緒　靏本 俊彦

翠会から総会と映画監督・井筒和幸さんの講演会があるという案内が届いたので、とりあえず友人を誘って参加しようと思いました。

最初は、『翠会』自体も、活動内容もよく理解していないのに参加しても大丈夫なのか、場違いなのでは…と不安になりましたが、とにかく出席して自分のこの目で見てみようと思い切って行く事にしました。

実際会場に足を運ぶと、懐かしい職員の方々がいたり、また、役員の方々や同窓会のメンバーの方々がとても気さくな感じで接してくれたという事もあり、それまでの不安は何だったのだろう？　と思うほど安心しました。

現在、翠会が抱える悩みとして、同窓生の方になかなか集まってもらえないという点があるそうです。会長の下置さんは、母校をよりよくするためにも卒業生に積極的に参加して欲しいとおっしゃっていました。

私は総会に参加する事に多少の不安を感じていましたが要らぬ心配だったと気付きました。

この総会は「金沢学院大学・金沢女子大学」をより理解し盛り上げるための良い場だと思います。学生生活でお世話になった学校にこのような形で還元出来るなら私たち卒業生としても幸いです。　次回も参加しようと思います。ありがとうございました。

恩師を訪ねて

Profile

根本　博

1971年、経済企画庁に入り、広報室長、国民所得部長、官房審議官等を歴任する。その間、国土庁、臨調事務局、NIRA、米ブルッキングス研究所、タイ王国政府、OECF、大蔵省財政金融研究所に出向する。1999年、㈱東京海上研究所理事。2003年より本学教授。

主な研究業績・作品等

「ポランダリー経済と企業」（日本評論社、2002年）論文に「魯点としての格差問題と財政規律のあり方」（2007年）、「地域格差是正策としての財政の役割」（2006年）、「マクロ経済バランスの改善を通した日本経済の再生」（2004年）、「格差に関する一考察」（2003年）、「高度成長の評価」（1975年）など。
平成３・４年「地球経済レポート」（経済企画庁）の執筆責任者

我大学の副学長で経営情報学部教授でいらっしゃる、根本博先生。先生は東京の下町、葛飾区のお生まれで、経済企画庁（現 総務省）勤務から、東京海上火災保険（現 東京海上日動火災保険）の研究所を経て、金沢学院大学の教授として赴任されました。今回は国家公務員から民間企業に、と華やかな転身を経験され、東京という都会と海外生活で培われたしなやかなで穏やかな物腰の先生にお話をお聞きしました。

金沢という知らない土地で、初めて大学で教鞭を取るという二つの新たな境地に進むにあたって、戸惑いや不安はなかったのですか？

講義をするのは公務員時代から役所の人などにしていたので、全く不安はありませんでした。金沢には憧れもありましたし、逆に金沢じゃなかったら来ていなかったかもしれませんね。金沢で若者に勉学を教えるという夢のある仕事に、自分の人生をかけてみようと思いました。やってみたい仕事だったので、何の迷いもありませんでしたよ。

先生は赴任されて７年目を迎えられますが、我大学の学生の印象はいかがですか？

全体的におとなしい学生が多いですね。自分をアピールするのが苦手というか、目立ちたがらない、目立つ事を避ける傾向があるかもしれません。でも女子学生はみんな元気ですよ。

経営情報学部は設立から14年が経って、私も仕事先で後輩たちと出会うことが増えてきました。現在の学科の編成と学科ごとの特徴を教えていただけますか？

経営ビジネス学科は経営のあらゆる分野に詳しくパソコンもできるオールマイティな学科です。情報ビジネス学科は情報のプロ。システムエンジニアなど、卒業後は即戦力の学科です。スポーツビジネス学科は今年４年目で、来年春に初の卒業生がでる予定です。スポーツ選手が６割、スポーツをビジネスチャンスにしたい学生が４割です。新しい分野での就職先が出てくるでしょうし、楽しみな学科です。

**同窓会の１期生は40代になり、職場では管理職になる方も増えてきました。各学科の特徴を卒業生が知る事で、学生たちの就職先がさらに広がるといいですね。
さて、経営情報学部の大学院では昨年初の博士が誕生しましたが、その詳しい過程を教えていただけますか？**

大学院では、博士前期課程（旧修士課程）が２年と、博士後期過程（旧博士課程）が３年あります。博士号の取得には合計５年がかかり、最後の研究論文で博士号の取得がふさわしいか判断されます。今年もまた博士が誕生しそうです。

**最初の博士号を取得された方は、当時68歳だったとお聞きしました。勉学をスタートするのに、年齢は関係ないんだと勇気付けられました。今後は同窓生の中の社会人枠からも、博士が誕生したらいいですね。
最後に先生から、同窓会や卒業生にメッセージやご要望などございましたらお願いします。**

社会に出たら人間関係がとても重要になります。卒業生同士のネットワークをもっと広げる事で、いろんなことに役立てていったらいいと思います。

そこで同窓会にお願いなんですが、卒業生名簿を作ってみたらどうでしょう？先輩はどんなところに就職しどんな活躍をしているのかを知ることで、同窓生のつながりも深まるのではないでしょうか？お互いの意識も高まり、助け合ったりつなげたりできると思いますよ。

**なるほど、そうですね。同じ大学を卒業していると言うだけで、親近感も生まれますし、会話もすぐに広がりますもんね。
名簿の作成には個人情報の問題もあって戸惑いもありますが、２年後には同窓会創立20周年を迎えますし、また検討していきたいと思います。
先生、どうも有難うございました。**

根本先生は現在、浅野川のほとりのマンションにお住まいだそうです。金沢という地を楽しまれ、学生たちにとっては優しくて頼れる相談役として、大学を支えてくださる素敵な先生でした。

インタビュアー：下置　宏子（第１期）

平成21年度 金沢学院大学公開講座について

金沢学院大学では、今年度も生涯学習の一環として公開講座を開催します。

懐かしい先生方の講座で学生時代を思い出し、関わりのなかった分野の講座で自分の見識を広げてみませんか。各分野のテーマに沿って講師が分かりやすい講義を行います。

今年度の公開講座日程を会報に同封致しましたので、ご確認のうえ、ふるってご参加ください。

なお、大学ホームページ（http://www.kanazawa-gu.ac.jp）に各講座の詳しい内容や参加申し込み方法が掲載されております。
受講料は無料です。詳細は別紙にて。

先輩の職場探訪

今回の職場探訪は、西茶屋街で芸妓「ゆめ吉」として活躍中の中村美彌子さん。今年の5月で芸妓歴3年を迎えました。芸妓になった当時は、新卒でこの仕事に入る人は珍しく、テレビや雑誌など多くの取材を受けました。ご覧になった方も多いのでは。

中村美彌子
第３期　美術文化学部

どんな学生時代を過ごしてきましたか？

私は埼玉県久喜市の出身で、せっかく金沢に来たのだから金沢らしいことを何かしたいと思っていました。加賀宝生流能楽部があると知り、1年次から在籍していました。3年次には全国宝生流学生能楽連盟の幹事校の代表として仕事ができたことは、とても大きな経験として残っています。

この仕事を始めたきっかけは？

当時、学芸員を目指していたのですが、正直なかなか募集が無く厳しい道でした。そんなとき出会ったのが今のお店の女将さんでした。そのころ女将さんは私がよく行っていたビリヤード場の支配人をされていましたが、諸事情で急きょお茶屋さんを継ぐことになりました。興味のあった私は見学させてもらったのですが、その時の芸妓さんの舞が目に焼き付いて頭から離れませんでした。

私の目指していた学芸員という仕事は文化財の保護・保存が目的なのだから、金沢の文化を残したいという発想からすると、自分自身がその残したい文化になれば保存可能なのでは？と考えたのが、この仕事に就くきっかけでした。

困難だったことは？

この仕事に就きたいと両親に伝えたところ、お茶屋さんは水商売だという先入観から大反対されました。私は実際の仕事やお稽古のことなど必死に説明しました。また、姉たちも両親の説得に力を貸してくれました。実は姉たちは自分のしたかった仕事に就けなかったことを残念に思っており、私がしたい仕事を見つけて、かつ、実現できそうであることはすばらしいと応援してくれました。

両親は私の熱意と、姉達の説得の末、承諾してもらいこの仕事に就くことが出来ました。しかも、初めて見た私の舞に感動してくれて、今ではよく金沢に見に来てくれるなど、応援してもらっています。

休日の過ごし方は

週末は金沢市内のイベントに参加したり、自分自身のお稽古に忙しかったりとあまりプライベートな時間は取れません。時々まとまったお休みをいただけるので、そうした時には海外旅行へ行くなど、リフレッシュしています。

「はん家」
金沢市野町 2-25-21 ☎076-241-0705
ゆめ吉さんを訪ねてください。
インタビュアー：小林　寛（第９期）

表紙の作者インタビュー

美術文化学部情報デザイン学科３年　岡山　志保

翠会会報の表紙のデザインをしてみての感想を聞いてきました。

Q1 表紙をデザインしてみての率直な感想はどうでしたか？また、何をイメージして製作しましたか？

テーマが「成長」ということで、植物をモチーフにしたものを考えました。何案か考えて３日間ほど考えた結果、ツバキをモチーフにして製作しようと決めました。シブくなるよりも、今っぽいものにしたかったというのがその理由です。２日間ほどで製作しましたが、全体を通じて（考案から製作・完成まで）おもしろかったです。

Q2 表紙のデザインの依頼を受けたとき、どう思いましたか？

先生からこの話を聞いたとき、「やってみよう」という意欲が出ましたが、先輩が作ったものを見て、その意欲がより一層増しました。

Q3 この大学、学部に入った理由はありますか？

コンピューター上で作るデザインに興味がありました。美術系の大学はいろいろありますが、広告やイベントなどで学院大の学生の作品を見たのがきっかけです。

Q4 将来、何をしたいですか？やりたい仕事はありますか？

動画（Webデザイン、アニメーション）に関わる仕事がしたいです。と同時に、個人に見てもらうようなものを作り続けたいです。

あとがき「インタビューを終えて」

前回に引き続き、表紙作成者インタビューをしましたが、５つや６つも年が違う人と初対面で話をするのは、年齢に関係なく緊張しますね…（これって私だけ…？）話をしたのは僅かな時間ではありましたが、自らの将来あるいは方向性をしっかり見据えていると思いましたし、それに向かう強い意志が感じられました。「自分はこうしたい、こうありたい」という夢を人に言う・伝えるのは簡単なことかもしれません。ただ、夢を現実にできる自信がないと堂々と人前では言えないように思えます。インタビューをして、一言一言に何か自信が湧っていましたし、持っている夢を実現してくれると思います。このまま自分の夢に向かって突っ走ってほしいと思います。

インタビュアー：村上　丈史（第15期）